

短 信

会長短信

大久保雅史

翔友の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年の2月に翔友会会長を拝命して早くも一年が過ぎようとしております。やるべき事は多けれど私の力不足で遅々として進まないのが実態で実状は課題が増えるばかりです。

翔友会の創立主旨はOBOGの親睦ですが、それに加えて現役を支援してやれる翔友会になるべきだと申し上げましたが実現はなかなか厳しいです。一番の悩みは翔友会の予算です。年会費を頂いての運営ですが、ここ数年は約80名の方にご協力を頂いておりますが年齢層が徐々に上がっております。若年層の会員のご協力を切にお願いする次第です。

現役の支援も当然ですが、翔友の皆様喜んで頂くことを企画し実行したいと考えております。OB体験搭乗会も定着してきており、さらに翔友の皆さんが気軽に参加し楽しんで頂ける行事を催したいと考えていますので、地区毎の開催も含め皆様のご提案を宜しくお願い致します。

現役支援の話に戻りますが人・金・物の支援を監督と相談しながら模索しておりますが、現状認識をするにしたいが諸々課題が出て来ます。

合宿日程と参加者数ですが、私は合宿にはほぼ毎回一日は行っておりますが折に触れ活動状況聞きますと現在の学生は授業にはかなり高率で出なければならぬ事で合宿に全日参加できないのです。競技会出場の公欠も認めない教授が多く、以前の関関同立戦で選手が少ないのが原因で負けた時に学生に聞いた事が有りました。

授業を4～5回欠席するとテストがあつたり単位を貰えない、当然アルバイトの時間も限られ、

お金がなくなると言っております。

一方の合宿費用はどうか、現在の合宿形態は機体、ウインチ、リトリブ車、索等は共用機材で宿舍、設備、滑空場も当然共用で一見合理的でメリットが有りそうですが実はそうではなく、ウインチはドイツから輸入、索はビニール製で使い捨て等機材の安全性を高めた事から費用が上り個人負担が大きくなっています。

更にトレラーは車検付、運転者も当然牽引免許が必要、ウインチマンも資格が必要で諸々のコスト高の要因であります。

世の中の変化と安全第一、法令遵守は当然ですが我々の時代、トレラーはリヤカーと称しウインチは自作で索は継ぎ接ぎ、宿舍は人夫小屋で…とは違い一週間の合宿で一人5万円が必要との事です。

デフレの世の中ですが合宿費は上がっています。アルバイト料はデフレ賃金でバイト先も少なく、時間的にも限られる様ですし、更に就活も大変です。しかし翔びたい思いで頑張っている現役が頼もしくもあり可哀そうで支援したい思いです。あくまでも部員が自分達で考え工夫し行動し解決するべきであります。また苦勞の中で達成感と満足感が生まれ、人生の糧になるのも事実ですが「我々も同じだった」では一蹴できない現実だと考えますので、少しでも部員諸君を励ますためにも皆様方の暖かいご支援をお願いする次第です。

勿論、翔友の皆様にも楽しんで頂くよう部員共々努力をいたしますのでどうぞご意見、ご要望を申し付けて下さいますよう宜しくお願い致します。

部長短信

山口博司

素晴らしい伝統を持つ、同志社大学の航空部は正に同志社大学の歴史でもあります。歴史、伝統というものは大変重いものでありまして、それを守り続けることほど大変なことはありません。大切なことは、守るということ自体であります。

ここで一般的なお話をいたしますと、守るということだけに専念いたしていますと、色々な物事が成就したためしはないということです。時代、社会は常に変化して参ります。変化に対応する、また出来る組織こそが持続性を得ることが出来るわけです。組織は取りも直さず人ですが、その組織は創成以来、持続可能性を内に含むものであり、何よりも大切なことは、変化に対応する、また出来る組織であることだと思います。進化論に通じる考え方です。進化の結果として、今の我々がいる、航空部があるということになります。

このような視点から、我が航空部を眺めてみますと、色々と反省点が出てきます。例えば、毎年のことですが、新しい学年度の初め、新入部員の勧誘があります。毎年、旧態依然とした方法でこれをやっていないかということです。工夫して、新しい企画で色々なものを取り入れなければなりません。新しい試みには失敗がつきものですが、こころはよくその検証さえすれば、次はより良い考えが出てくるものと思います。新入部員の勧誘の例を取りましたが、諸事万端、通じるものがあります。航空部が成長するように変えていく、変わっていく、近年は特にこころの必要性を感じています。長い目で見れば、成長は優れた業績を生み、やがて伝統になります。

今般、全国大会出場の実績が続くようになり、大変良い機運が生まれつつあります。今年も、航空部への皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



監督短信

森 川 泰

全国大会を目前に控えてこれを書いており、皆さんが読まれる頃には全国大会も終わり新たな目標に向かって、新入部員を迎えていることでしょう。ASW28を導入してから3回目の大会になりますが、不運にもこれまでは震災や天候不順で力を出し切れしていません。今年こそはと教官も学生も思っているのですが、大会に向けた準備は万全ではなく、監督としては反省ばかりが頭をよぎります。

さて、ご存知の通り学連もまだ大きな変化の真只中で、航空部を取り巻く環境は常に変化しています。のみならず大学での勉強も、就職活動の様相も一昔前とは大きく変わっています。世の流れは留まることはなく、誰もその流れに合わせていかなければなりません。航空部も例外ではなく、周りの環境に合わせていかなければ生き残れません。それを学生もOBの皆さんも再認識し、OBは学生を取り巻く環境を、学生はOBが作り上げて来た歴史を理解し、ともにこれからの航空部を作って行きましょう。

この様に、航空部を取り巻く環境は時々刻々と変化を遂げています。航空部も一つのサーマルにしがみついているのは前へ進めず、下手をすれば風に流されて後退します。高度を獲得して次のサーマルへと進まなければなりません。航空部が前進する為に、今回、指導体制を微修正します。監督は私が今暫く務めさせて頂き、コーチは前田教官にお願いします。彼は最も積極的に活動をしている若手教官の一人で、自身の技量向上にも意欲的な将来が楽しみな人材です。そしてコーチだった玉井教官には、大学公認の役職ではありませんが、監督代理をお願いします。これから暫く他の教官方のご協力のもと、この体制で行きます。只、肩

書は変わりますが肩書に関わらず、これまでと同様に各教官が可能な範囲で最善の指導をして下さるでしょう。今回の変更は周りの状況に合わせてつ、将来へ繋げるものだとお考え下さい。私の指導が行き届かない処を玉井監督代理と前田コーチに補佐して頂きます。そして様々な逆風に打ち勝って前へ進む為には更なる先輩方のお力が、特に資格をお持ちの先輩方の支援が必要です。是非、お力をお貸し下さい。また、OBの皆さんは学生支援だけではなく、ご自身も再び空を飛びませんか。先輩が飛ぶ姿は現役部員をきっと元気付けます。下級生が上級生を見て育って行く様に。

最近、痛感し反省しているのは、全てに於いてなかなか前進出来ていないことです。部員をパイロットとして大会選手として育て上げることも、クラブ運営改善も行きつ戻りつしています。私の下手なソアリングの様に、リフトで高度を稼いでも、いざ前進しようとするシンクや風に阻まれ、気が付くとまた元の位置に戻ってしまっているという状況です。同志社航空部に関わる皆さんと一緒に何とかこの状況を打破すべく頑張りますので、宜しくお願いします。